

# 2024(令和 6)年度 尚絅学院大学 AI データサイエンス教育プログラム に係る自己点検・評価書

尚絅学院大学 情報教育推進委員会

## <学内からの視点>

### (1) プログラムの履修・修得状況

「AI 社会とデータサイエンス」については、全学類 1 年生の必修科目であり教務部委員会において単位修得状況を把握している。情報教育推進委員会において、授業の内容や運営及び質向上に向けて取り組みを行っている。初年次教育の位置づけで開設しており、不合格の場合は、不合格者対象に隔年で特別開講を行うなど早い段階で修得できるよう対応している。

### (2) 学修成果

尚絅学院大学で作成している「成績評価のガイドライン」に基づき、シラバスでは科目の到達目標を明示している。毎回、授業の内容に関連した小テストやミニッツレポートを課すことで学生の理解度を図りながら到達目標をクリアできるよう取り組んでいる。

プログラムの学修成果は、単位修得率及び平均 GPA 並びに成績分布状況を確認することで点検・評価が可能である。さらに、令和 5(2023)年度後期からは、学修成果可視化システムを導入し、学修状況の可視化に努めており、授業評価アンケートにおいては、学生自身が到達目標に対しどの程度修得できたのか自己評価を行うことを実施し、多面的に学修成果を把握することができる。

### (3) 学生アンケート等を通じた学生の到達目標達成度

授業改善アンケート結果による到達目標達成度評価

「AI 社会とデータサイエンス」については、全学類 1 年生の必修科目として実施しており、学生の到達目標達成度について継続的に調査・評価を行っている。

#### 【調査概要】

対象：全学類の履修学生（人文社会学類 2 年生、それ以外の学類 1 年生）

評価項目：「授業の到達目標に示された内容（知識や技能など）が身についたと思いますか」

#### 【到達目標達成度の推移】

・2024 年度：88.9%（回答率 71.8%、回答者数 336 名）

※2023 年度：87.3%（回答率 56.1%、回答者数 142 名）

両年度とも約 90%の学生が到達目標について肯定的評価を示しており、高い学修成果が確認されている。特に 2024 年度は回答率が大幅に改善（+15.7 ポイント）し、より多くの学生からの評価を得ることができた。

#### （４）学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

「AI 社会とデータサイエンス」については、全学類 1 年生の必修科目となっている。

#### （５）全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

「AI 社会とデータサイエンス」については、全学類 1 年生の必修科目となっている。

### <学外からの視点>

#### （１）教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

進路就職課において全学類の卒業生について就職先の調査を行っている。AI 社会とデータサイエンス科目の開始は令和 2 年度であり、本プログラムの開始は令和 4 年度である。本プログラムの修了者が社会に出るのは令和 7 年度以降となる見込みであるが、卒業調査においても可能な範囲で活躍状況及び企業の評価について調査する予定である。

#### （２）産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

##### 【評価された取り組み】

・尚綱の情報教育への取り組みについて、真摯に取り組んでいると評価でき、「実践 AI&データ探究コース」の新設や MDASH 応用基礎レベル認定取得を目標としている姿勢について、情報教育への取り組みが適切に行われていると評価された。

##### 【課題・改善点の指摘】

・現状では、情報教育に対する学生のニーズがどの程度あるか不明瞭である。また、一般企業でも学生に MDASH の応用基礎レベルまでは求めている。生成 AI を効果的に活用できる能力があれば十分ではないか。しかし、今後の DX の進展を考慮すると、プログラミングスキルを持つ人材の需要は高まる可能性があり、それを見据えたカリキュラムであれば評価できる。

・新しいコースを 15 名に限定したことは、大学として多くの希望者を想定していないことを示唆しているのではないか。

・他大学との差別化をどのように考えているか、東北×AI 教育で検索しても尚綱は出てこない状況。学生が興味を引くような打ち出し方ができておらず、学生には伝わらない可能性がある。

##### 【今後への期待】

・尚綱の強みである地域連携を活かし、「IT ができる専門職を育成する」という独自のメッセージが適切である。